

寄贈図書リスト

気象データひまわりを楽しむ本
川崎宣昭, 登内道彦, 井手迫義和著, B 6 判, 126 p,
1,500 円, 丸善, 専門書
New Horizon of X-Ray Astronomy
F. Makino, T. Ohashi 著, A 5 判, 683 p, 18,000 円,
Universal Academy Press Inc, 専門書

X-Ray Imaging and Spectroscopy of Cosmic Hot Plasmas
F. Makino, K. Mitsuda 著, A 5 判, 653 p, 15,000 円,
Universal Academy Press Inc, 専門書
アインシュタインの「夢」
矢島久夫著, A 5 判, 197 p, 2,800 円, リーベル
出版, 専門書

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。
e-mail で gpjimu@tenmon.or.jp 宛, なお, 原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

研究助成

天文学振興財団 1999 年度研究助成公募

当財団では, 国立天文台の事業支援等を通じて天文学の振興を図っております。当財団の 1998 年度の研究助成は, 山田 亨(東北大)及び新永浩子(茨城大)の 2 氏 2 件に対して計 200 万円を交付しました。

1999 年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。
1998 年 11 月 2 日

天文学振興財団 理事長 古在由秀

1. 公募種目

(1) 研究助成

- a. 対象: 天文学に関する優れた研究活動を行おうとする個人又は団体の代表者, 原則として 35 歳以下
- b. 助成: 総額 200 万円とし, 助成件数は 1~2 件程度

(2) 国際交流に対する助成

- a. 対象: 天文学に関する海外での国際交流活動(1 カ月以内)に平成 11 年 4 月以降参加する研究者
- b. 助成: 派遣に要する往復航空賃及び滞在費の一部(実績平均 1 件当たり 17 万円程度)とし, 助成件数は数件程度

(3) 国際研究集会参加に対する助成

- a. 対象: 平成 11 年 4 月以降に海外で開催される天

文学に関する国際研究集会(10 日以内)に参加, 発表する研究者

- b. 助成: 派遣に要する往復航空賃及び滞在費の一部(実績平均 1 件当たり 15 万円程度)とし, 助成件数は数件程度
2. 選考結果: 選考委員会で審査の上, 採択の可否については, 平成 11 年 3 月頃に決定予定
 3. 報告: 研究助成は, 年度末, それ以外の助成は, 帰国後 1 カ月以内に報告書を提出していただきます。
 4. 申請: 申請書は事務局あてに請求して下さい。
申請書の提出締切は平成 11 年 1 月 14 日必着
 5. 問い合わせ先: 天文学振興財団事務局
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内
TEL: 0422-34-3659
FAX: 0422-34-3690

研究会・集会案内

Yukawa International Seminar 1999

Black Holes and Gravitational Waves

— New Eyes in the 21st Century —

主催: 基礎物理学研究所, 湯川記念財団
共催: ITP (UCSB), 日本学術振興会
日時: 1999 年 6 月 28 日(月)~7 月 2 日(金)
場所: 京都大学基礎物理学研究所
内容: ここ 2, 3 年のうちに, TAMA300 や LIGO など大型重力波検出装置が稼働を始め, 強い重力場を伴う天体現象の観測が急速に進展することが予想される。1999 年度湯川国際会議では, これら来る 21 世紀における新たな展開に備えるために, 重力波天体物理学やブラックホール物理学など, 強い重力場に伴う現象に関するこれまでの研究を総括し, 今後の研究の方向について討議する。本会議は, 各分野の専門家による招

待講演および一般参加者によるポスター発表からなる。
 参加費：5000円（プロシーディングス代込み）
 参加及びポスター発表申込締切：1999年3月31日
 申込方法：電子メール、ホームページ
 連絡先：

電話：03-3263-6474
 FAX：03-3263-7077
 icpeac@ics-inc.co.jp

会務案内

日本天文学会 1998 年秋季年会報告

1998 年秋季年会は 10 月 1 日(木)～ 10 月 3 日(土)の 3 日間、山形大学の教室の 5 会場を使って開催された。口頭(10分)、口頭(3分)+ポスター、による発表講演数はそれぞれ 250, 159 であった。なお、ポストデッドライン講演は 1 件であった。今回の年会参加者は 571 名と盛況で、柴田晋平氏を中心とする山形大学の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々をお願いした。

第 21 回原子衝突物理学国際会議

主催：原子衝突研究協会、日本物理学会、日本化学会、IUPAP

後援：日本天文学会、日本学術会議等

日時：1999 年 7 月 22 日(木)～ 27 日(火)

場所：仙台国際センター

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山

電話 022-265-2211

内容：原子、分子、イオン、分子クラスター、エキゾチックアトムなどの間の衝突、およびこれらと電子、陽電子、光子、ミュオン、反陽子などとの衝突ダイナミクス、ならびに実験新技術。隔年開催。

講演はノーベル化学賞受賞者 Y.T. Lee 教授他数十名の招待講演のみ。自由投稿はポスターセッション。

参加費：早期登録は 32,000 円、学生 15,000 円、その後は 40,000 円、学生 20,000 円。

バンケット 10,000 円(別途)

申込締切：抄録：1999 年 3 月 1 日

早期登録：1999 年 5 月 1 日

以後、会期中まで登録可

連絡先：

1. 内容

〒182-8585 調布市調布ヶ丘 1-8-4

電気通信大学電子物性工学科 松澤通生

電話：0424-43-5445 FAX: 0424-43-5505

icpeac@pc.uec.ac.jp

http://power1.pc.uec.ac.jp/Sendai

2. 1st/2nd Announcement 請求 (2nd Announcement 作成は 1998 年 12 月)

〒102-8646 千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館

ICS 気付, XXI ICPEAC 登録事務局

会場	A	B	C	D	E
10月1日					
9:00-12:00	黒河 宏企	熊谷 紫麻見	西城 恵一	羽部 朝男	大橋 隆哉
13:00-15:00	一本 潔	村上 敏夫	小倉 勝男	市川 隆	山田 亨
16:00-18:30	花岡庸一郎	山田 章一	松元 亮治	坪井 昌人	野沢 恵
10月2日					
9:00-11:00	横山 央明	神戸 栄治	出口 修至	木下 宙	土居 守
13:00-15:00	西 亮一	上野 宗孝	河合 誠之	吉田 道利	高遠 徳尚
10月3日					
9:00-11:00	吉岡 愉	林田 清	小林 秀行	谷口 義明	立松 健一
13:00-15:00	梅村 雅之	常田 佐久	奥村 幸子	柴田 一成	三好 真

〈記者会見〉

秋季年会の前日午後 1 時 30 分から、山形大学で記者会見を行い、次の点について解説した。

★トピックス

(1) 「小マゼラン雲は X 線パルサー・ラッシュ」

小山勝二(京大理) 他 関連講演：Q15a, R38a

(2) 「宇宙でもっとも小さなジェットの発見」

一吹き出し直後の原始星「マイクロジェット」をとらえた—

古屋 玲(総研大) 他 関連講演：P34a

(3) 「繭に包まれた電波銀河 OQ 208」

—スペース VLBI の最近の成果—

亀野誠二(国立天文台), 小林秀行(宇宙研) 他

関連講演：S19a, S20a, S21a

(4) 「江戸時代の鉄砲鍛冶国友藤兵衛が製作した 160 年間輝きを保つ金属反射望遠鏡の謎」

富田良雄(京大理) 他 関連講演：Y09b

〈特別講演会〉

今回より新たに年会中に特別講演会を設けることにな

り、2日目午後4時～5時に、松田卓也氏(神戸大)によって「プレゼン道入門 — 科学研究における口頭発表・ポスター発表の効果的手法について」と題する講演がなされた。会場は立見が出るほどの盛況(300人あまり)で、聴衆は松田氏の抱腹絶倒の講演を満喫した。

〈通常総会〉

1998年秋季年会における通常総会は、2日目午後5時より開催された。前回同様、事前における多くの正会員の葉書投票のおかげで、定足数は無事満たされた(詳しい数字は後述の総会報告を参照)。議事に先だって、この出席数の確認と、署名人の選出が行なわれ、続いて議事に入り、第1議案(1999年度事業計画案)、第2議案(1999年度収支予算案)、第3議案(次期新役員(理事、監事)案)、第4議案(次期評議員選挙管理委員会委員案)の承認が、若干の質疑応答ののちになされた。総会への出席正会員数は127名(葉書投票を含めた有効出席者数は最終的に354名)であった。

〈懇親会〉

2日目午後6時から、山形大学生協食堂を利用して行われ、約190名の参加者があった。山形市、財団法人五島プラネタリウム、(株)エイ・イー・エスからのご芳志もあり大変盛り上がった。

〈天文教育フォーラム〉

3日目午後3時から、天文教育普及研究会、山形市、山形市教育委員会との共催による天文教育フォーラム『新しい太陽系観を教室に、そしてすべての人に』— 新しい方法をめざして — が開催された。まず「現代太陽系科学と教育現場の太陽系像とのギャップ」大槻圭史氏(山形大学)による話題提供があった後、参加者を生徒とみなした模擬授業が布施哲治氏(総合研究大学院大学)によって行われた。地方で行われる学会最終日の午後の後半という悪条件にも関わらず、70名以上の参加があり、フリーディスカッションでは、研究者サイドと学校教育者サイドに大きなギャップがあることが明らかにされつつ、時間を1時間延長するほど活発な意見交換がなされた。

〈公開講演会〉

10月4日午後1時30分より山形市中央公民館ホールで、山形市、山形市教育委員会共催、山形県、山形県教育委員会後援により開催された。講師および演題は「日本がハワイに作った“すばる”望遠鏡」— ファーストライトをめざす — 海部宣男(国立天文台ハワイ観測所)、「宇宙の放浪者：彗星たちのロマンチック・ストーリー」渡部潤一(国立天文台)であった。山形大学の柴田晋平氏らの多大な努力の結果、聴講者は350名を超え、大盛況であった。海部氏の講演では、ハワイのすばる望遠鏡の建設状況をはじめ、今後の予定についてわかりやすく講演された。渡部氏の講演では、最近の明るい彗星を中心に、彗星についてのエピソードやしし座流星群などの話題に

ついて、わかりやすく解説された。聴講者全員に、この講演会記念の特製絵葉書(7枚セット)が配布された。講演に先立ち、この特製絵葉書のために、自らのシュミットカメラで撮影した原画を提供していただいた加藤知能氏に、天文学会より感謝状を贈呈した。

また聴講者を対象としてアンケートを実施した。その結果、(1)公開講演会を知ったのは、ポスター・チラシ・知人によるものが大多数を占め、いわゆるマスコミよりもミニコミが重要であること、(2)宣伝や勧誘によって参加するのではなく、本当に天文・宇宙に興味があるから参加することがわかり、一時的な宣伝よりも日頃の地道な普及活動が問われることがわかった。

〈保育室〉

保育室は山形大学理学部の宿直室(和室)に設置された。3日間でのべ8人の子供の利用があった。シッターさんの派遣は(有)マミーズタイムに依頼した。詳しい報告は学会のホームページにある。なお、天文学会と同様に保育室設置を考えている他学会員のために、設置についての情報をホームページで公開している。

〈その他〉

東北宇宙航空開発推進協議会(公開講演会の後援)より天文学会に寄付があった。

(年会実行委員長 加藤万里子)

1998年(平成10年)秋季年会通常総会報告

1998年(平成10年)10月2日(金) 17:00～18:30

於：山形大学教養教育2号館222号室

議事に先立ち定足数の確認がなされた。事前投票総数は231、総会出席者数は127、出席者のうちで事前投票した人の数は4(これは事前投票の方を無効とする)。したがって有効出席者総数は354であり、これは総会成立の定足数(正会員総数1327人の5分の1=266)を満たす。次に署名人として蜂巣 泉氏、上野宗孝氏が選出された。議事の経過および結果

1. 1999年度事業計画書(案)(第1号議案)が提案され、質疑応答ののち賛否を問い、(一部の語句修正は別として)原案は賛成多数で承認された。これにより、欧文研究報告の電子化出版と、それにとりまなう掲載料の値下げ(半額へ)が、来年1月より開始されることが決まった。(なお、天文月報掲載時(月報9月号)に未定であった教育委員会委員は、磯部瑠三、縣 秀彦、山縣朋彦、毛利勝廣、加藤万里子の諸氏に決まった。)
2. 1999年度収支予算(案)(第2号議案)が提案され、質疑応答ののち賛否を問い、賛成多数で承認された。これにより、来年度予算より、基本財産と内地留学奨学金の管理変更がなされることになった。
3. 次期(1999～2000年度)新役員(理事、監事)(案)(第3号議案)が提案され、質疑応答ののち賛否を問い、

賛成多数で承認された。

4. 次期評議員選挙管理委員会委員(案)(第4号議案)が提案され、質疑応答ののち賛否を問い、賛成多数で承認された。

5. その他、天体発見賞の細則変更の要望があった。

(庶務理事 柴田一成)

日本天文学会 1999 年春季年会の開催と講演の申し込みについて

春季年会は 1999 年 3 月 25 日(木)から 27 日(土)までの 3 日間、京都大学にて開催します。

【講演の申し込み】

講演の申し込みは「〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、1 月 7 日(木)までに必着するよう規定の申込用紙(本号にはさみ込み)を用いてお送りください。

e-mail での投稿受付は、1 月 4 日(月)正午～1 月 8 日(金)正午までとします。非会員の方からの e-mail での予稿も受け付けます。e-mail での予稿の書き方、送り方およびフォーマットは tennet を通して連絡します。tennet から直接情報を入手できない方は tennet 加入者にお聞きください。さらに、WWW にも掲載します。直接学会事務局へのお問い合わせにはお答えできません。郵送と e-mail との二重の申し込みは固くお断りします。

さらにプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、プログラムと同様に WWW 上に掲載しますので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表(講演 10 分)」及び「口頭発表(3 分)+ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3 分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 つ目以降の講演は「口頭発表(3 分)+ポスター発表」とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、3 月 19 日(金)まで受け付けます。年会実行委員長(吉川 真)までお問い合わせ下さい。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の 15 通りです。

J.位置天文学, K.天体力学, L.太陽系, M.太陽, N.恒星, P.星形成, Q.星間現象, R.銀河, S.活動銀河核, T.銀河団, U.宇宙論, V.地上観測機器, W.飛翔体観測機器, X.情報処理, Y.天文教育・その他

なお、申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入ください(例:恒星(内部振動))。

講演申し込み・発表に際しては特に次の事項を厳守してください。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 口頭発表においては、オーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
4. ビデオプロジェクターの使用(10分講演のみ可能)を希望される方は1月8日までに年会実行委員長(吉川 真)までご連絡下さい。
5. スライドの使用は原則として考えていませんが、どうしてもという方は、年会実行委員長まで前もって連絡してください。
6. 液晶プロジェクターの使用希望については、必ずしも対応できるかはわかりません。使用を希望されるかたは、極力早めに年会実行委員長まで問い合わせして下さい。
7. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで張りつけることはせずに、必ず糊をお使いください。

なお、近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかんにかかわらず、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたしますので、慎重にお申し込み下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。非会員の方で講演を希望される方には、申し込みの際に入会をお薦めしております。

【年会出席旅費補助】

講演申し込み者で年会出席旅費の補助を希望される会員は、1 月 7 日(木)までに必着するよう日本天文学会に申し込んで下さい。ただし申し込みのできる人は、1999 年度会費納入済みの方で、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない正会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会会場にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。年会終了後にはお渡しできません。

【参加費等の支払い方法】

講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、会員の種別によらず、1 講演につき講演登録料が免除となります。

年会参加費	3,000 円 (正会員(学生)は 2,000 円)
年会講演登録料	3,000 円
年会予稿集	2,000 円

- 1) 年会参加費及び年会講演登録料は年会会場でお支払いください。

- 2) 年会講演登録料は、講演を複数回申し込まれた方の、2講演目からの1講演あたりの金額です。
- 3) 予稿集予約の葉書を学会へお送り頂いている方以外で、予稿集を購入希望の方は、会員番号と1999年春季年会予稿集希望と明記の上、下記へご送金下さい。

代金は1冊2,000円(含消費税、送料は会員は不要、非会員は実費)です。

郵便振替は 00160-1-13595
社団法人 日本天文学会

【お問い合わせ】

- 1) 年会中に集会のため会議室の利用を希望される方は、前もって京都大学 大谷 浩までご連絡下さい。
メールアドレス: ohtani@kusastro.kyoto-u.ac.jp
TEL: 075-753-3894 FAX: 075-753-3897
- 2) 年会実行委員長の連絡先
宇宙科学研究所 吉川 真
TEL / FAX: 0427-59-8341
メールアドレス: makoto@pub.isas.ac.jp

【天文学会会期中の保育室設置のお知らせ】

春季年会でも、会場内に保育室を設置する予定です。詳しい内容と申し込み手続きは、天文学会のWWWホームページ(<http://www.tenmon.or.jp/meeting/>)に掲示します。WWWがアクセスできない方は、実行委員の加藤万里子まで、電子メール(mariko@educ.cc.keio.ac.jp)かFAX(045-563-1650)でご連絡ください。

(年会実行委員長 吉川 真)

訂 正

過日発行致しました会員名簿のうちの下記部分に誤りがありましたので、お詫びして訂正致します。

P 138 難波 收様の住所のうちの
Ge → GE へ
電話番号(追加) 31-30-2884947
FAX番号(訂正) 31-30-2802471

● 事務局だよりの ●

会費納入のお願い

天文学会は主に会員の皆様から納入される会費によって運営されております。天文学会は1998年度より定款改訂に伴い会計年度が1月～12月となりましたので1999年3月31日までに1999年度会費を納入して下さい。年会費納入時に、春・秋季年会予稿集の予約をしている方は予稿集代金も加算してご納入下さい。

正会員(一般・予稿集あり)	22,000円/年
正会員(一般・予稿集なし)	18,000円/年
正会員(学生・予稿集あり)	17,000円/年
正会員(学生・予稿集なし)	13,000円/年
準会員(予稿集あり)	12,000円/年
準会員(予稿集なし)	8,000円/年

※学生の方は郵便振替ご利用の時は通信欄に、所属大学、学年等、学生である旨を明示して下さい。銀行振込の時は別途郵便、E-Mail、FAX等でお知らせ下さい。(天文月報奥付に記載してあります)

◎銀行口座引き落としの登録をしている方は、1月10日(金融機関が休業日に当たる時は翌営業日)にご指定口座より引き落とします。

◎今月号に振替用紙を同封していますのでご利用下さい。銀行振込をご利用の方は

東京三菱銀行三鷹支店 普通 4434400
社団法人日本天文学会 へご送金下さい。

◆会員の方々の管理は会員番号によって行っておりますので会員番号を必ず明記して下さい。

編集委員	末松芳法(編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大
平成10年11月20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359(事務局)	/ 0422-31-5488(月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp